

2024年度(総合型選抜)AO選抜入学試験 総合心理学部「課題論文方式」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
総合心理学科	83名	34名	15名

(2) 本入学試験の目的

この試験では、本学部アドミッション・ポリシーのうち、特に人間の心と行動、現代における人間のあり方に関する基礎的な問題関心を有していることを学生に求めています。心理学を学ぶ意欲と問題意識が極めて高く、設定された課題に対する理解力と表現力に優れ、かつ独創的な発想力を持つみなさんの出願を期待しています。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

第1次選考のエントリーシートでは、志望理由、これまで自分が継続して取り組んできたこと・誇れることについて記述を求めました。

小論文では、心理学に関連するテーマについての論述を求めました。テーマには、現時点での知識や関心に即し、入学後に学びたいと思う内容を自由に設定することとしました。

(2) 第2次選考

第1次選考合格者に対して、90分の課題論文試験と約20分の個人面接試験を実施しました。課題論文では、4つのポイントについて問いました(順不同)。

- 1) 高等学校の学習を踏まえ、心理学に関する文章理解を問うもの、
- 2) 同理解に基づいて、考える力およびそれを表現する力を総合的に試すもの、
- 3) 研究データを示す図表を読みとりその内容を説明するもの、
- 4) 研究内容の重要事項をクリティカル(批判的)に論じるもの、です。

個人面接では、2人の面接担当教員が選考書類に基づき、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいこと、特色ある活動と学びの実績などを質問しました。

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

エントリーシートでは、本学への志望動機や入学後に学びたい分野・テーマが明確になっているか、学習意欲・関心は高いか、卒業後の進路について明確なビジョンを有しているか、将来について真剣に向き合っているか、などを審査しました。

小論文では、論文としての構成、内容の論理性、説得性、独創性、また語句や漢字を正しく書いているかを審査しました。

(2) 第2次選考

課題論文では、心理学に関わる文章を読み、文章を適切に理解できるか、科学的に考え書く力があるかを試すものでした。設問1では、社会や人間のあり方について普段から関心を有しているかを問いました。設問2では、本文の内容を適切に理解でき、表現できるかを問いました。設問3と4では、図を適切に読み、その内容について深く考察できるかを問いました。設問5では、課題論文の内容をもとに自分の考えを論理的に展開できるかを問いました。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

エントリーシートでは、志望理由や学びたい分野が総合心理学部の教育目標や教育課程と合致するかどうかを評価しました。また、これまでの学業の達成度についても評価しました。小論文については、興味深いテーマを追求しているか、文章の構成がよく考えられているか、語句の使用は適切か、などを評価しました。また、エントリーシート・小論文ともに、総合心理学部での学びを個人的なもので終わらせるのではなく、周囲の学生や社会へ還元する意思と実現性を表現できたものを評価しました。

とくに志望理由については、自身の個人的な悩みの解決を動機としたものより、社会問題の解決を動機とするものの評価が高くなりました。また、与えられた環境で学ぶという受け身の姿勢のものよりも、自分が新しい環境を作り出していくという能動的な姿勢のもの評価が高くなりました。

(2) 第2次選考

課題論文は、文章や図、データなどを読み込み、科学的に考え、書く力を評価しました。設問1では、社会や人々のあり方について関心を持ち、表現できるかを評価しました。設問2では、本文の内容を適切に読解し、文章に表現できるかを問いました。設問3と4では、図を適切に読み、その内容から考察できるかを評価しました。設問5では、課題論文の内容をもとに自分の考えを論理的に展開できるかを評価しました。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

エントリーシートについては、多くの受験生が本学のアドミッション・ポリシーや総合心理学部のカリキュラムの特徴をよく理解して記載していました。しかし、これまで自分が継続して取り組んできたこと・誇れることについては、本学での具体的な学びと十分に関わらせて論じられていないものも目立ちました。

(2) 第2次選考

今年度の課題論文は比較的平易な文章が題材となり、文章の理解ができているものが多くみられた一方で、考察する内容や、文章としての表現力で点数の差がつかしました。自分の議論を論理的に展開できたもの、問われた点に関わる重要事項をクリティカルに論じることができたものが評価されました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

第1次選考のエントリーシートでは、個人的な経験をきっかけに関連する学問に関心をもった、という内容で終わらずに、そうした個人的な経験は客観的あるいは心理学的な視点ではどのように理解される問題課題であるか、そしてその問題課題の解決に対して、自身が本学での学びを活かしてどのように貢献したいかを表現するとよいでしょう。社会や人間のあり方に関心を持ち、新しい知識を取り入れて独創的な発想を育成することを期待します。

第2次選考の課題論文試験では、設定された課題に対する理解力や分析力、表現力、独創性なども評価の対象となります。これらは、課題を読みこなし、自分の見解を論理的に表現するための国語・英語、データを分析的に読み解く力としての数学などを基礎にしているものです。総合選抜型入試対策としても高校での基礎的な学習に力を入れるとよいでしょう。

また、課題論文試験では専門的な文章が課題論文となる場合があります。心理学や隣接領域の書籍などを読み学習をしておくといよいでしょう。そして、その書籍などではどのような主張がなされているか、一方、自分であればどのような主張をするかを文章として表現する練習をするとよいでしょう。

以上